

「和光コンクリート工業 株式会社」

大型・長尺の

コンクリート製品で

作業現場の省力化

効率化に貢献

河川護岸用コンクリートブロックや擁壁、側溝など私たちの暮らしを守るコンクリート製品を製造する同社。大型・長尺の製品を製造できる体制を整え、作業員が減少する建設現場からの省力化・効率化の要望に応えます。



代表取締役

金丸 和生
かねまる かずお



大型化、特殊化が進む
コンクリート製品を製
造するのにクレーンは
欠かせない存在です。



クレーンが2基になったことで製品化できた『ハイブリッド木製杭』。地震による液状化対策や護岸などの地盤補強に利用されます。



ガードレールの基礎が一体化した『L型擁壁』の製造にも2基のクレーンが活躍。反転作業の工数や時間が1/3程度に短縮されました。



ものづくりへの想い

日本はものをつくる産業が元気じゃないとだめだと思うんです。地方の一企業ではありますが、日本の製造業はまだまだ元気だぞということを示していきたいと思います。

今後の展望

「人と自然にやさしい製品づくり」を念頭に、環境面にも配慮しながら、プレキャストコンクリート製品による現場の省力化に貢献していきます。

ますます増えていく
プレキャスト工法を
見据えて。



プレキャスト工法。それは工場で製造されたコンクリート製品を建設現場で組み立てていく工法で、今後需要が増える方向です。

「かつては現場で型枠にコンクリートを流し込んで固める『場所打ち』がほとんどだったのですが、建設業者が減っていることもあり、現場で手間のかからないプレキャスト工法が増えていきます」（金丸社長）

平成26年に国交省が、建設現場の省力化及び効率化を図る手段として、コンクリート工場製品の利用を拡大する方針を公表したことから、同社は今後コンクリート製品の長尺化、大型化が進んでいくと予想。その需要を取り込むために『橋型クレーン』を導入しました。

「当

時は宮崎県内で津波避難タワーが建てられ始めるタイミングで、当社はプレキャスト工法による建築を提案することにしたんです。そのためにもう1基橋型クレーンが必要でした」

既設の橋型クレーンと合わせて2基になったことで、大型・長尺のコンクリート製品の生産体制を整えた同社。当初の目的であった津波避難タワーの受注には至っていないものの、これまで受注を辞退してきた大型製品も受けられるようになったり、ハイブリッド木製杭という新製品を開発したりと、クレーン導入の効果は波及的に広がっています。

「今後、もっと大きいもの、長いものを工場で作ってほしいという要望が間違いなく出てくるはずです。これまで培ってきた技術と橋型クレーンを2基持っている強みを生かして、受注を拡大していきたいですね」



case
04

窯業・土石製品製造業

和光コンクリート工業 株式会社

設立：1963年

代表取締役：金丸 和生

資本金：1,000万円 従業員：45名

事業内容：プレキャストコンクリート製品の設計

製造販売に関する事業およびその付帯工事等

〒883-0102

宮崎県日向市東郷町山陰丙1537-1

TEL.0982-69-2216

FAX.0982-69-2554

<https://www.wakocon.co.jp/>



ものづくり
補助金活用
ココが
ポイント！



安全で効率の良い作業環境を実現

残業時間が
0時間に！

新たなクレーンにはインバータ制御など作業員の安全を考慮した機能が充実。さらにクレーンが2基になり作業効率が高まったことで、工程遅延による残業がなくなるなど、作業環境の改善にもつながりました。